

Net Work Report **FORWARD** for working together

ネットワークレポート
フォワード 第47号

特定非営利活動法人大阪障害者雇用支援ネットワーク
〒540-0031 大阪市中央区北浜東3-14(エルおおさか4F)

TEL:06-6949-0350
FAX:06-6949-1256

<http://www.workwith.or.jp/>
E-mail: o-isc@onyx.dti.ne.jp

発行人/江口 敬一

今号のごあいさつ

「次世代に繋ぐ準備の年」

代表理事 江口 敬一

ゴールデンウィークも終わり、青葉生い茂る季節となってまいりました。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

先月、伍賀借子さんの呼びかけにより、1996年に大阪障害者雇用支援ネットワークを発足した創設メンバーの方々と久しぶりにお目にかかる機会がございました。前川朋久さん、関宏之さん、炭田昌信さん、田中純幸さん、永田良昭さんと、現職では、矢野孝さん、應武善郎さんと小職の9人でした。皆さんとてもお元気でしたが、懐かしい思い出と共に障がいのある人の就職件数や雇用率が過去最高を記録し、精神障がいのある人の雇用義務化への方向付け等、この17年間の障がい者雇用を取り巻く社会環境の変化に驚かされていました。皆様の高い志と熱い思いに改めて敬意を表する次第です。

また、ネットワークにとってうれしいニュースは、副代表理事の湯川隆司さんが昨年交通事故で負傷されてから約1年の療養、リハビリを経て、不自由ながらも活動に参加できるようまで回復されたことです。これまで障がいのある人を情熱的に支えてこられたご本人が、不慮の事故により今度は支えを必要とし、支えられる立場を経験されました。今後のネットワークの活動に、新たな意味合いが加味されることを祈念しております。

5月25日(土)に、今年もご好意により(株)ダイキンサンライズ摂津にて総会を開催させていただきます。今年度は役員改選の年ではございますが、湯川さんのご事情も勘案し副代表理事を現2人から4人体制とし、委託事業の減少等

による財政課題への対応や、今後のネットワークの方向性を決定していく1年といたし、皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。



小職も及ばずながら代表理事を承って2期4年が経過いたしました。今年度を次世代に繋ぐ準備の年と位置付け、役員の方々と一緒にがんばりたいと存じます。

よろしく申し上げます。

総会の記念講演は、古希を過ぎてもお元気な取締役工場長の後藤金丸さんに(株)ダイキンサンライズ摂津での長年に亘るご勤務の思い出や、障がい者雇用への思いをお話いただく予定です。(株)ダイキンサンライズ摂津は、6月に創立20周年記念式典を開催されます。誠にありがとうございます。障がいのある社員が100人を超え、今や日本を代表する特例子会社の一つとなられ、また同年齢の代表取締役社長應武善郎さんと共にネットワークにも多大な貢献を賜り、厚く感謝しております。

少し先になりますが、例年9月に開催しております「2013 障がい者雇用フォーラム in 大阪」の基調講演は應武社長にお願いしご了解を得ております。どうぞ楽しみにお待ちください。

様々な課題を抱えながらも、創設時の初心を忘れず役員一同がんばってまいりますので、何卒よろしくご支援ご協力の程お願い申し上げます。

平成24年度 OSK 企業ネットフォーラム全体会

講演テーマ：「日本で一番大切にしたい会社の経営」

講師：株式会社きものブレイン 取締役副社長 岡元 眞弓 氏
報告者：伊集院 貴子(事務局)

企業ネット構築事業部では、大阪府を東西南北4ブロックに分け、各地域で特色のある企業ネットフォーラムを開催しています。今までに「OSK企業ネットフォーラム」の開催111回、述べ3,008人の方にご参加いただきました。日頃はブロックごとの活動ですが、年に一度、会員が一堂に会し全体会を開催します。平成25年3月6日(水)の全体会では、障がい者を雇用している企業の経営者をお招きし講演会を開催しました。以下は、その概要です。

株式会社 きものブレイン

『お客様の幸せ』と『社員の幸せ』を追求する全員参加型の企業をめざす。

新潟県十日町市で1976年に呉服販売を起業、現在は、きもの総合加工（きもの丸洗い・ガード加工・しみ抜き・縫製）を営む。全従業員数238人。うち障がいのある社員は25人。過去5年以上にわたり人員整理をせず、黒字経営が続く。社員教育にも熱心で、積極的に障がい者雇用を続けている。これらのことが評価され、2012年3月に第2回「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞審査委員会特別賞を受賞。また、2013年3月には「ダイバーシティ経営企業100選」受賞企業に選定された。

◆障がい者雇用のきっかけは？

「姪が障がいを持っていて、彼女の幼い頃から現在までを見てきて、社会自立には仕事を持つことが何よりと思ったこと。」「社会に対する倫理的責任と使命感が、せずにはいられない衝動を与えてくれること。」等、動機は一つではないが、障がいのある人が社会の中であたり前に受け入れられ行動できる。そのためには、地域全体で考えていく必要があると思ったからだ。平成5年重度障害者多数雇用事業所の認定を受け、それまでに働いていた4人と新たに10人を採用した。

平成25年1月現在、身体、知的、精神、発達障がいと様々な障がいのある社員を25人（うち13人が重度障がい者）雇用し、実雇用率は15.6%。十日町市で雇用人数が多い事業所3番目であり、まさに地域の雇用を支えている企業と自負している。

◆適材適所と職域開発

障がいのある人の採用にあたっては、面接で本人が了解できる範囲で障がいについて自己認識ができているかを聞くことにしている。とにかく採用したからには適材適所に徹し、社員の特性を活かすことを考えている。知的障がいのある人を採用した時に、仕事を創ることが課題であった。四国の産地でできなくなった「たとう紙（きものを包む和紙）」の紐つけ作業を創っ



▲熱心に聞き入る参加者

た。障がい者雇用を進めようとする「ウチではやってもらえない仕事がない」という経営者がいるが、(株)きものブレインで「職種は創ることができる」こと「リストラをしない代わりに仕事を創る」ことを実証した。

◆社員の意識啓発と人材育成

一番重要なことは共に働く社員の理解と努力。「区別はするが、差別はしない。配慮はするが、遠慮はしない。」が、ポリシー。一般社員の面接時に障がいのある社員と共に働く会社であることを伝え、入社時をはじめとする様々な機会啓発を行っている。また、「障がい者支援委員会」を設け、支援員を25人配置、任期は2年程度としている。毎年、半数以上が入れ替わるようにしているので、10年後には150人が支援経験者となる計算である。これで多くの社員に関心を持ってもらい、少数の特定専門家より、多くの素人が支援する会社になりたいの思いを持っている。

◆障がいのある人の雇用継続と課題

当時働き始めた障がいのある社員が、まもなく一斉に定年期を迎える。本人の意思があれば65歳まで働くことができ、定年後再雇用している障がいのある社員が3人いる。反面、加齢によって極端に作業能力が低下している社員もいる。社員個別に短時間勤務や職種変更、賃金条件等の見直しをしている。人によっては福祉サービスへのスムーズな移行も考えなければならぬ。しかし、現段階では福祉から雇用への支援はたくさんあるが、雇用から福祉への出口の施策がなく、今後の課題である。



▲講師の岡元取締役副社長

※出席者の感想

- ☞ 就労支援はあるが退職後や職業能力が低下した社員への施策がないことの課題を明快に話してくださった。今後の議論のきっかけとなった。
- ☞ いろいろな障がいのある人を雇用され、好事例ばかりではないと話されていたが、岡元副社長が困難さを楽しんでいるところがすごい！
- ☞ 顧客は一般の消費者。地域との連携の仕組みがある。職種は創る。挨拶は徹底する。共感するキーワードがたくさんあった。

～最後に～

岡元副社長は、大阪では8年ぶりに会社の取り組みについてお話しくださったそうです。早朝、雪深い十日町市から来られた岡元さんは、「大阪はあったかいね。カイロいっぱい貼ってきたのに…」と気さくに話しかけてくださいました。熱く、思いのこもった講演の後、会場からの質疑応答では、感想も含めて鋭い質問が飛び交いました。「会社をリタイアした後の出口施策についての課題」「最低賃金減額特例許可申請」についてなど、経営者として、また、日々障がいのある社員に真摯に向き合っている岡元副社長ならではの明快なご回答を聴くにつけ、胸のすく思いがしたのは私だけではなかったでしょう。

インターンシップサロン活動

おこしカフェ ～『みんなで餃子作り』

報告者：島津 雅子(大阪障害者雇用支援ネットワーク 会員)

3月23日(土)、(社福)コミュニティキャンパス「この指とまれ(ガンバ寿)」で開催されたおこしカフェに参加しました。今回の内容は“餃子作り”。以前に開催された“おこしカフェ～カレー対決”から早1年、調理実習&味を競いあう企画第二段です。今回はどんな個性豊かな餃子たちが生まれるのだろうか、ワクワクした気持ちで向かいました。

今回も1歳7ヶ月の娘と一緒に参加させていただきました。羽曳野から約2時間、小旅行気分楽しい電車タイムを過ごしていると、乗り過ごしたようで聞いたことのない駅名が続き始めました。(どうやら乗り換えを忘れていたようです。)そんなハプニングの後、吹田駅へ降り立ち、そこで6年前にスワンベーカーリーと一緒に働いていたN君と久しぶりに再会しました。ベーカーリーが閉店することとなり、働いていたスタッフやメンバーは雇用が打ち切られ、皆がそれぞれの道を歩むことになりました。しかし、このおこしカフェでは、その時の仲間と時々再会することができ、再就職して自分らしく元気に過ごしている姿を報告し合うことができる場所でもありました。そんな訳で、私にとってちょっぴり特別な毎回楽しみにしている理由がありました。それから、子どもが大きくなったら親子クッキング教室に通いたい夢があるので、そんな気分が味わえるかもしれないとそれもまた楽しみでした。(子どもが生まれてからも一緒に参加させていただき、スタッフとして関わらせていただきありがとうございました。)

会場となる(社福)コミュニティキャンパス「この指とまれ(ガンバ寿)」へ到着し、参加者とスタッフが3つのチームに分かれ、今回も作戦会議からのスタートです。我が家の近くの餃子屋さんの梅しそ餃子がとても美味しいので、「梅しそ餃子はどう？」と私が一番に提案してしまいましたが、「それいい！」と即決。「豚肉とエビどっち入れる？」「豚肉がいい！」「野菜は、キャベツ？白菜？」「キャベツにしよう！」「薬味は、梅としその葉とショウガとにんにくと…」「私、にんにく苦手なのでなしでもいいですか？」「なしでしょう！しそが引き立つからその方がいいかもね。」「つけダレは、大根おろしとポン酢で和風味はどう？」と、こんな風にオリジナル餃子が考案されていきました。「あの～予算余ったらデザート作れますか？パフェとか…」「デザート作るの得意なの？」「食べ放題バイキングのデザートコーナーでよくパフェ作るんです。」「じゃ、梅しそ餃子&パフェでいきましょ～！では、出発！」と一番にスーパーに出発しました。



▲楽しそうに餃子を包む様子

買い物もスムーズに終わり、いよいよ“餃子作り”開始です！キャベツやしその葉の千切り隊、梅の実ほぐし隊、男性陣はショウガや大根のすり下ろし隊と、それぞれに分かれて作業を開始しました。他のグループでは、家庭菜園の自家製無農薬野菜を持参されている方がおり、「どうぞどうぞ～」とおすそ分けに来て下さり、なんだか田舎の暖かいご近所づきあいを感じ、心がホッと和みました。餃子の種が出来上がると全員で餃子包み開始。これもまた、田舎の大家族を感じて心が和みました。

ジュージュー。あちらからもこちらからもいい匂いが漂ってきました。娘は、ずっとすやすや眠っていましたが、餃子のいい匂いに誘われてパチリと目を覚ましました。

さあ待ちに待った試食タイム。自分たちの餃子を食べた後は、他のグループの餃子も食べます。どれも本当においしくて、あっという間にお皿が空っぽになってしまいました。投票用紙にそれぞれのグループの点数を記入し、審査結果を待つ間に皆で後片付けをしました。審査結果は、どのグループもほとんど差がなく、1番でも2番でも皆大いに拍手、自分たちで作ったものは美味しい！みんなで作ったら、なお美味しい！というのが共通して感じたことだったと思います。



▲パリッと焼き上がった手作り餃子

数時間ですが、作業を共にし、いっぱいおしゃべりして笑って本当に楽しいひとときでし

た。N君は、私の娘に初めて会うことも楽しみにしてくれていたようで、「女の子ですか？二人目は女の子と男の子どっちがいいですか？」「僕は、女の子と男の子2人子どもが欲しいです。一緒にテレビが見たいです。」と夢を語ってくれました。それから、「自立するために宿泊訓練に行きました！」ということが一番に報告してくれました。一緒のグループだったA君は、「お子さん可愛いですね！」「ほんと？」と私が聞くと、「そう言うといいと聞きました。子育ての応援になるから…」「あははは」と思わず笑ってしまいました。



▲楽しい試食タイムを過ごす参加者

障がいのある人たちは生きにくさを多く持っていると思います。その中で皆が自分らしく、明るく社会の中で生活している姿に、いつもパワーをいただいています。おこしカフェのような交流会で互いに元気を分かち合うことのできる場はとても素敵な場所だと思います。また、障がいのある人たちにとって生活の中に自分の役割があること（仕事や家庭での手伝い）や余暇を楽しめる力を持っていることは、その人の豊かな生活に大きく結びつくことであると思います。

おこしカフェは今回で終了となってしまいますが、また何らかの形でこのような機会を持つことができるといいなあと思います。私自身、6年近く関わらせていただき、たくさんの方との出会いがありました。本当にありがとうございました。

3月公開講演会

～精神障害者の就労支援を考えるシンポジウム～

報告者：広報事業部 岩崎 富巳子

大阪障害者雇用支援ネットワークは、大阪精神科診療所協会と共に精神障がいのある方の就労や雇用継続に向けた啓発活動として、3月16日に講演会を開催した。今回は、就労支援を受け、一般企業に就職した精神障がいのある人、支援者、医療機関より登壇いただき、様々な角度から就労についてふりかえりを行った。

○シンポジスト

(株)ペトロスター関西 落盛 義直 氏
 にじクリニック 副院長 西浦 竹彦 氏
 にじクリニック 精神保健福祉士 長谷高 純一 氏
 NPO)大阪精神障害者就労支援ネットワーク (J S N) 新大阪 久保川 良子 氏
 ケアホーム あえる 角野 将宏 氏

○コーディネーター

NPO)大阪精神障害者就労支援ネットワーク (J S N) 統括所長 金塚 たかし 氏

◆**金塚さん**：J S Nでトレーニングをして、(株)ペトロスター関西で就職した落盛さんの話を中心に、デイケアでどういう準備をして就労支援機関に繋いでいったのか、また、働き続ける中での医療機関と就労支援機関との連携について、いろんな話が出来ればと思っています。まずは落盛さん、デイケアではどのように過ごしましたか。

◆**落盛さん**：最初は内職で商品を運ぶ作業をしていて、立ったり座ったり大変だった。

◆**金塚さん**：西浦先生、当初のデイケアの様子はどうでしたか。

◆**西浦先生**：落盛さんは人前で言葉を発することが緊張を伴うので、挨拶をすることがなかなか難しかった。

◆**金塚さん**：デイケアを始めて何年目に社会適応訓練を利用し、その時の落盛さんの様子はどうでしたか。

◆**長谷高さん**：半年ぐらいだったと思う。当時33～34歳だったと思うが、その時から就労を目指すようなことをデイケアの中でも話していたようだったが、なかなか自分が言いたいことがうまく言えず、スタッフやメンバーとのコミュニケーションもとれなかった。

◆**金塚さん**：7年間デイケアに通って、その後J S Nに来ることになりますが、J S Nを選んだ理由は何ですか。

◆**落盛さん**：J S Nは難しいそうなところだと正直思ったが、一番就職に繋がると思った。

◆**金塚さん**：長谷高さん、落盛さんから就職したいと相談がありJ S Nの選択になったと思いますが、相談を受けた当時の話を聞かせてください。



▲左から、久保川さん、落盛さん、長谷高さん、角野さん、西浦先生

◆**長谷高さん**：当時から就職をしたい気持ちを伝えてくれていた。何故かということ伝えてくれるまでには時間がかかった。いろんなマネジメントと一緒に考えていこうという話の中で支援が始まった。

◆**金塚さん**：西浦先生、長谷高さんから落盛さんの就労について医療的に大丈夫だろうかと相談があったと思いますが…。

◆**西浦先生**：社会適応訓練やデイケア内の就労研修プログラムに参加していたので、就労を目指す人であるという認識は持っていたが、時間をかけてゆっくりと進めてあげたいと考えていた。長谷高さんから「落盛さんが結婚するためには就職をすることが必要だと思っている。」ということを知った。患者さんが集中的にプログラムに対応していくことは、かなり無理をさせることになるけれど、結婚という遠い目標を持ち、そのために就職するという気持ちを持って取り組むのであれば、長谷高さんや落盛さんの気持ちに乗っかってみようと思った。

◆**金塚さん**：長谷高さん、先生に相談してどう

いうトレーニングをしましたか。

- ◆**長谷高さん**：医療から外に出ていってもらい、自分で通える範囲で、自分の目で確かめて、自分が一番いいと思うところに行ってもらいたかったので、外部の知識を得てもらった。
- ◆**金塚さん**：落盛さんが所内作業を経て実習に行き、どのような支援をしてきましたか。
- ◆**角野さん**：行けない日が増えてどうしようかと思ったが、J S Nに協力いただいて、週1回にしたり、時間を遅らせて出勤したり配慮いただいた。
- ◆**長谷高さん**：初回から不安があり、行ってもらうまでに時間がかかった。話を聞いて担当者と連絡を取りながら、何とか繋がるように集中してやった。
- ◆**久保川さん**：スタッフに注意されて行きたくない時期もあったと思う。作業の遅れは自分で目標を立てたり、朝、起きれないことは、ケアホームと相談しながら少しずつ改善していった。
- ◆**金塚さん**：途中でJ S Nをやめようと思いましたが。
- ◆**落盛さん**：2回ぐらい思ったが就職したいという気持ちがあったのでやめなかった。
- ◆**金塚さん**：J S Nは休まない、途中で帰らないということに重点をおいている。医療機関から見ると患者に対してストレスやプレッシャーを与えることになるが、西浦先生はどう思いますか。
- ◆**西浦先生**：医療機関なので患者の病状を治療し、症状が悪くなるようなストレス、環境、負荷はできるだけかけない。我々が心配していることとJ S N側が引っ張っていかけてくれることの間に、必ずしも意見は一致しない。今回、負荷をかけていい範囲を広げていけるようなことを学ばせてもらったと思う。
- ◆**金塚さん**：落盛さんが働き始めて変わったことはありますか。
- ◆**落盛さん**：遅刻が少なくなり、時間を守るようになった。夜更かしせず生活リズムもよくなった。以前よりも表情が柔らかくなって、受け答えもハッキリするようになったと言われます。
- ◆**長谷高さん**：今これだけの場面でこれだけのことを伝えられる力があるだけでも、8年間の成長はすごく頑張ったと思う。
- ◆**角野さん**：遅刻に対する意識や社会生活を営む上での意識が変わった。自立したい気持ちが出てきたのかなと思う。
- ◆**西浦先生**：店長からストレートに言われることに適用していく中で、自分から変わる姿勢

を持てるようになったと感じる。病状的な変化や管理という点からいくと、就労支援という前に進んでいく取り組みの中で、そういう意味での強さというものが育ってきたと感じている。

- ◆**金塚さん**：働き続けるうえにおいて、精神障がいの方の就労支援というと、医療との関係は外せないと思うが、西浦先生はどんな関わり方がいいと思いますか。
- ◆**西浦先生**：それを考えながらやっています。医療機関とJ S Nの働きかけ方が違うということもそうですが、患者が持っている力をこれまで少なく見積もっていたということに気づかせてもらった。我々が患者を守らないといけないと思ってきたことが、結果的に患者をデイケアや病院という枠内にとどめておくことになったということが、これまでもあったのではないかと。むしろ厳しい側面はあるが、外の世界と触れてもらう、負荷をかけてもらうことによって、得るものや強くなっていくところもあるということに気付かせてもらった。
- ◆**金塚さん**：最後に皆さんから一言ずつ。
- ◆**落盛さん**：障がいを持っている人の励みになれるように頑張ります。
- ◆**久保川さん**：店長の支えがあって落盛さんはここまでできていると思う。また、長谷高さん、角野さん、西浦先生に相談して一緒に考えてもらえたことが、私にとっては支えになった。
- ◆**長谷高さん**：医療機関の方は、本人さんの相談にしっかり寄り添って言葉をかけてもらうとうまく話が出来ていくと思う。
- ◆**角野さん**：落盛さんのすごさや頑張っているところを見てこちらも励みになった。生活支援の場としては、自立して結婚することが目標と聞いているので、頑張っていたきたい。
- ◆**西浦先生**：僕らが患者に対して説得や説明するよりも、彼がクリニックのデイケアに与えた影響は大きい。まだまだ課題があるので、今日のことを励みに頑張っていきたい。

<質問>* 抜粋

- 質問**：就労に積極的でなかった場合、デイケアに通うことでモチベーションを高めて就労できるということはあるのか。
- 西浦先生**：それはあると思う。障がいの方が就職したいですと手を挙げて、あなたは無理だからと言う医者の中で、就職したいと言える勇気は患者にはない。あなたには可能性があるよと言ってあげる環境を作ることが、モチベーションを引き出す唯一の方法だ

と思うし、デイケアがそのような環境作りができれば、モチベーションを引き出す大きな舞台になると思う。

- 質問：就労支援を通じて病院の雰囲気がどう変わったか。
- 西浦先生：患者が病状を悪化させずにデイケアで過ごすことが出来たらそれがゴールだという考え方があった。しかし、患者は高齢化していき、社会復帰する機会を持ってない。そのために患者が卒業できるデイケアを作ることが、私の最初の目標だった。デイケア以外の場所に自分の生活の場を向けた時に、以前は、管理して閉じ込めてしまっていたが、外

に向かっていく患者の気持ちを尊重するというふうになってきた。医療が出来ることはごく一部であって、患者の自主性や自発性をデイケアのルールから縛るのではなく、どうしたら出来るかを考えようという雰囲気や意識に変わってきたと思っている。

終わりに…

いろんな取り組みを通じて、たくさんの方が落盛さんを支えていた。連携する中での気付きを大切にお互いが信頼し合い、あきらめずに取り組んだ理想なチーム支援だと感じた。

<短期職業訓練インターンシップ実施状況 (H25.3.31)>

I. インターンシップ登録及び実施状況 II. インターンシップ相談者状況 <全体>

実施中及び実施済件数	90名
修了数	75名
中退数	15名
(うち雇用移行のための中退数)	(1名)
実施中数	0名
実施予定および調整中	0名
登録取消	17名
IS利用登録人数合計	107名

		身体					知的	精神	その他	計
		聴覚	視覚	肢体	内部	小計				
実施	修了者数	10	0	0	0	10	23	41	1	75
	中退者数	0	0	0	0	0	7	8	0	15
	実施中数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		10	0	0	0	10	30	49	1	90
実施予定・調整中		0	0	0	0	0	0	0	0	0
登録取消		0	0	2	0	2	2	13	0	17
合計		10	0	2	0	12	32	62	1	107

III. 就職状況

	身体	知的	精神	その他	全体
就職者数	8	10	17	0	35
障害種別就職率	80%	33%	35%	0%	39%

※ 就職状況については一部確認が取れていない所があるため、数に反映できていない可能性があります。

H24年度 インターンシップグラフ

